

# 令和8年度

## 第1回総合型選抜

### 小論文 解答例

(80分)

注 意
-----

1. **試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。**
2. この問題冊子は、表紙を除いて2ページあります。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明・汚れ、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
4. 解答用紙の定められた欄に、**氏名と受験番号を監督員の指示に従って記入してください。**
5. 解答は、解答用紙の定められたところに記入してください。
6. 色付き紙1枚は下書き用紙です。下書き用紙に書かれたものは、採点の対象とはしません。
7. 問題冊子と下書き用紙は、持ち帰ってください。

### 【小論文 出題意図】

以下に列挙する点を見る。

- ・ 文章で記述された内容を正確に把握し、着目すべき主題を正しく抽出できている。
- ・ 農業が、成長産業として持続的に発展していくために抱えている問題を日本社会として解決すべき問題ととらえることができるかが重要である。基幹的農業従事者数と平均年齢および農業の仕事に従事している際に感じている課題から従事者だけの問題ととらえず国として、社会として解決に貢献できるところがあることを論理的に記述できている。

【解答例】

- 氏名，受験番号を正確に記入すること。
- ※欄には何も記入しないこと。

解答用紙

氏名		受験番号					
----	--	------	--	--	--	--	--

基幹的農業従事者数は約20年間で半減しており、平成12（2000）年の240万人から令和6（2024）年は11万4千人にまで減少している。このうち49歳以下の基幹的農業従事者数は12万5千人と全体の11.2%を占めている一方、65歳以上は79万9千人と全体の71.7%を占めている。また、令和6（2024）年の基幹的農業従事者の平均年齢は69.2歳となっており、高齢化が進行している。

後継者不足に加えて人手不足や販売価格の安さの課題を解決するためには生産技術の開発に国として取り組んだ方がよいと思われる。現在も一部では農業にITを導入、ドローンを用いた農薬散布、AIによる栽培管理などの生産技術が導入されているが、このような技術が開発されれば労働環境が改善され若い人も農業に魅力を感じるようになると思われる。生産効率が向上することで省力化がはかれ、また品質が安定すれば販売価格も安くなりすぎず安定すると思われる。個人でこのような技術を開発するのは困難なので国として取り組んだ方がよいと思われる。一方で農業の生産技術開発には、高額な設備投資や研究開発費が必要になる。誰がどこまで負担するのかを判断するのが困難である。農業従事者の負担割合が大きくなると小規模農家には導入が困難で格差を広げる可能性がある。また技術に依存しすぎることによって、伝統的知識や地域特有の農法が失われる恐れもある。このような背景を踏まえたうえで日本の農業を持続可能にするために消費者が日本で生産された農作物、特に地産地消を意識し、地域農産物を積極的に選ぶことが重要だと思われる。また、農業の価値を理解する教育を学校で行ったり、農家を支える地域コミュニティの強化や、企業・自治体によると農業参入の促進も重要であると思われる。このような体制が整えられれば日本の農業は持続可能で競争力のある産業へと進化できると考えられる。

200

400

600

800

